

秦野高等学校 令和8年度 入学式式辞

日 時 令和8年4月7日（火） 10：00

場 所 本校体育館

この美しい春の佳き日、PTA会長 阿久津徹也様、ご来賓の皆さま、また、保護者の皆さま方のご臨席の下に、令和8年度神奈川県立秦野高等学校第81回入学式を挙行できますことは、私のみならず、本校職員のひとしく喜びとするところでございます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校は皆さんの入学を、心から歓迎いたします。

さて、皆さんが今日その一步を踏み出した本校は、今年、創立100周年という記念すべき大きな節目を迎えます。大正、昭和、平成、令和という激動の時代の中、一世紀にわたってこの学び舎で若者たちが語らい、汗を流し、夢を紡いできました。この秦野高校には、かつて、同じように志を抱いた2万9千人を超える先輩たちの想いが刻まれています。この記念すべき年に立ち会う皆さんは、まさに「選ばれた世代」であると言えるでしょう。

本校が100年もの間、地域や社会から信頼され続けてきたのは、揺るぎない「伝統」があったからです。しかし、伝統とは、単に古い形式を守ることはありません。時代の変化に合わせて、その時々生徒たちが勇気を持って「挑戦」し、古い殻を破り、新しい風を吹き込んできた結果が、今のこの100年という歴史です。

皆さんに期待するのは、先人が築いた土台の上に、自分たちの新しい価値を積み上げることです。学習においても、部活動においても、日々の教育活動において、「これまでがこうだったから」という枠に収まらず、「もっと良くするにはどうすればいいか」を問い続けてください。

「伝統とは火を守ることであり、灰を崇拝することではない」

という言葉があります。皆さんに受け継いでほしいのは、過去の形式ではなく、先人たちが絶やさず燃やし続けてきた「情熱」という名の火です。

100年の伝統という大きな土台の上に立ちながらも、その枠に縛られる必要はありません。むしろ、この安定した土台があるからこそ、皆さんは安心して未知の世界へ、正解のない問いへと、果敢に挑戦して行ってください。

皆さんの新しい視点、新しい感性が、本校の歴史に新しい1ページを書き加えることを、期待しています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。

この3月、近隣の中学校、小学校の卒業式に来賓として、参列させていただきました。卒業する中学生、小学生は、3年間、あるいは6年間過ごした学び舎を巣立つ淋しさに涙していましたが、その涙は充実した学校生活を送った誇らしさとも、私の目には映りました。送り出す先生方、温かく見守る保護者の方の目にも涙が光っていました。こうして成長してきた子どもたちを、次は高校で受け入れるのだと、大切なお子様をお預かりする責任の重さを、あらためて身を引き締めて感じております。

高校生という時期は、子どもから大人へと変化する、精神的にも多感な時期です。時には一歩離れて見守り、時には寄り添い、学校とご家庭が手を取り合って、お子様の成長を支えていければと存じます。そのために、教職員一同、全力を尽くす所存です。まずは本校の教育活動に、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新入生皆さんの高校生活が、希望に満ち、輝かしい挑戦となることを心から願います。

以上をもちまして、入学の式辞といたします。

令和8年4月7日
神奈川県立秦野高等学校 校長 大江雅美

